

過労死家族と過労死被害

中畠清美

【研究目的】

過労死被災者・家族は過労死 110 番運動が始まると、1989 年から各地で過労死家族の会を結成し、1991 年に連合体である全国過労死を考える家族の会を結成した。会員は助け合って過労死の労災認定を求める活動を行ない、過労死問題を社会に訴えてきた。しかし、過労死家族はさまざまな困難をかかえ、労災活動を行なった。過労死家族は過労死被害や困難に抗うことで、生活や生き方を変えることを余儀なくされることがあった。過労死家族はどのような被害を受け、過労死とどのように向き合い活動したのかを明らかにすることを研究目的とする。

【研究方法】

私は 1990 年に夫を過労死で亡くし、京都の過労死家族の会に参加し、2002 年から過労死家族の研究を始めた。過労死被災者・家族の姿を明らかにするために調査をおこなった。データ収集は過労死家族の会に当事者として活動に参加し、過労死家族の言動をメモした。さらに、京都と大阪の会員に労災活動と過労死家族の会活動について話を聞き文章に起こした。過労死家族の会や支援団体などの機関誌を参照した。

飯島伸子（1979）は、公害・労災・薬害に共通の被害構造があることを明らかにし、労災（死亡）被害も示した。基本的被害である労災被災により遺族が被る被害は、派生的レベル 1 があり、さらに派生的レベル 2 がある。被害はさまざまであり複雑に関係し合うのである。収集したデータは、これらの被害の項目ごとに分類し分析した。本研究では、中畠清美（2021）の調査結果のデータをもとに被害と被害より派生するより変化する生活や人生・人生観の変化に注目し、二次分析を行なった。

過労死家族のデータは貴重であり、本人を特定しやすいものである。データ収集に当たっては、本人を特定できないようにデータを加工するなど、研究倫理に基づいて研究を行なった。

【研究結果】

飯島の示す被害や派生する被害の項目に、過労死家族の被害の調査結果は当てはまった。家族の労災（死亡）により生じる被害は「経済的困難の発生」、遺族内の役割変化や人間関係の変化、親せき関係が変化することである。事業所や行政との紛争関係が発生し、「嘆き・悲しみ・不安・怒り・不信など精神的被害」の一次被害がある。一次被害から派生する二次被害は「教育・結婚・住宅・老後などの計画の変更・変化・破綻」や「新たな怒り・不信・不快・悲しみ・苦痛」である。調査収集したデータはすべての項目に当てはめることができた。

加えて、被害構造の項目に当てはまらないデータでは、「家族の過労死をあるがままに受け入れる」ことができるようになり、「過労死問題だけでなく社会問題への関心の強まり」、「過労死家族の会運動や社会運動に積極的に取り組む」、「活動を通じて自身の変化を感じる」、「自身の役割の変化を感じる」、「新たな絆の獲得」など過労死被害からの変化・成長を示した。

【考察】

過労死被害は多様なものであったが、飯島の示す労災（死亡）被害の項目に当てはまった。過労死独自の被害については、過労死への不安があった。さらに遺族の心身の不調、疾病の発症があった。被害が起こる前からの被害である。過労死被災後の変化は、さまざまなものがあつた。過労死被害にあい、過労死の労災認定を求めて活動をするのであるが、その闘いにより怒りや悲しみの中から社会の見方が変わり、人生観や生き方が変わることを語る者がいた。

人が戦争、災害、事件、事故、喪失などによるトラウマ経験後に、人間的成長をすることがみられ、「トラウマ体験後の成長」の概念が研究されるようになった（宅 2014）。過労死被災者・家族では、トラウマを経験した者がいる。それを乗り越えて生きて活動をしているのだ。一部の過労死被災者・家族のありようは、「トラウマ体験後の成長」の概念に当てはまる可能性が考えられた。

【結論】

調査の協力者の語る「物語」は、飯島の項目に当てはめていくがその中身は多様である。一人ひとりの過労死の個別性・特殊性があるからだ。ゆえに、過労死家族には過労死被災

後の運動の過程の中で、一人ひとりにあった運動や支援が必要であろう。過労死救済運動に関わる支援者ならびに過労死家族の会の支援や活動にはさまざまなアプローチが必要である。トラウマ体験後の成長の可能性などを考えた新たな多様な視点を入れた支援や活動の検討が必要である。

過労死は人生を失い、残された家族の生活も壊して過労死被害が生じる。過労死被害を救済し、過労死をゼロにすることは、過労死被害の第一歩に過ぎない。過労死被害を深く知ることが過労死被災者・家族を知ることになり、被害の回復や支援につながるだろう。過労死被害は多くの被害の一つに過ぎない。過労死被害を多くの被害とともに考えることが必要である。

【参考文献】

- 飯島伸子、1979、「公害・労災・薬害における被害の構造」．『公害研究』8（3）, 57-65.
- 中畠清美、2021、「過労死家族の会の形成と展開——京都と大阪の過労死運動と過労死家族の会と当事者の事例から——」 博士論文 立命館大学大学院
- 宅香菜子、2014、『悲しみから人が成長するとき : PTG = Posttraumatic growth』 風間書房.